

## 静岡大学通信(1)

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2018-05-21 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 道林, 克禎 メールアドレス: 所属:
URL	<a href="https://doi.org/10.14945/00025096">https://doi.org/10.14945/00025096</a>

## 静岡大学通信 (1)

今号から静岡大学地球科学系教官の紹介と動向について簡単な紹介をしていきます。第1回は理学部と教育学部に在籍している全教官の名前と連絡先、簡単な研究テーマを紹介します。研究テーマに興味をもたれた方は、お気軽に電話あるいは電子メールで連絡されてはいかがでしょうか？

### 理学部地球科学系 (生物地球環境科学科) 教官紹介

氏名	連絡先	専門分野	研究内容
池谷 仙之 教授	054-238-4784 senikey@ipc.shizuoka.ac.jp	進化古生物学	生物進化の過程とその機構を地球科学の基礎の上に解明しようとしている。約5億年の歴史を持ち、現在も尚繁栄している介形虫類は石灰質の殻を有するので地層中に化石としてよく保存される。介形虫は甲殻類に属し、その体制は陸上の昆虫に匹敵し、沢山の個体を扱えるものの一つである。この介形虫類を使ってあらゆる角度から、あらゆる手法を駆使して、系統進化を考察している。
新妻 信明 教授	054-238-4787 senniit@ipc.shizuoka.ac.jp	地質学 古生物学 同位体地質学 古地磁気学	プレート運動が、日本列島やアジア大陸をどのように変形し、地球全体の気候を変動させたかを研究しています。東海地震で静岡大学がどうなるのか、アジアモンスーンが何時から始まったのか、地球温暖化が進行するとどうなるかなど、差し迫った問題の解明をめざしています。
狩野 謙一 教授	054-238-4786 sekkano@ipc.shizuoka.ac.jp	構造地質学 テクトニクス	地殻の上部から表層部にかけて、どのような地殻変動が起こっているのかを、野外での地質構造を調べることによって明らかにしようとしています。
鈴木 款 教授	054-238-4799 seysuzu@ipc.shizuoka.ac.jp	生物地球科学 海洋化学 大気化学	地球環境を知ることは過去から現在までの環境の変化及びその仕組みを知ることであるが、それだけでは十分ではない。地球は「地球生命圏」といわれるように生物と環境の「共進化」により維持されている。環境変化に伴う生物活動の変化とその変化による環境への影響という相互作用を知ることが重要な視点である。地球表層環境 (大気、水、地殻) の物質循環は「共進化」の原動力である。地球表層環境の炭素、窒素、リン等の生物活動に深く関わっている元素の生物地球化学が私の研究分野である。
里村 幹夫 教授	054-238-4945 semsato@ipc.shizuoka.ac.jp	測地学 固体地球物理学	人工衛星からの電波や地球の引力の測定をもとに、地球表面の変動や地球内部の様子を調べています。最近では、衛星からの電波の遅れを利用して、大気の変動も調べるようになりました。
和田 秀樹 教授	054-238-4791 sehwada@ipc.shizuoka.ac.jp	地球化学	地球化学では地球の歴史を元素の目から見ることができます。炭素という元素は、宇宙や地球の歴史の中で、色々な形を取りながら、生命の進化、大気や海洋の進化そして大陸や海洋の地殻の進化などにも重要な関わりを持っています。いま、私の研究の中心はこの炭素の地球化学、特に安定同位体の分布や挙動をとおして、地球の歴史の中で炭素がどのような関わりを持ち、どのような役目をしてきたかということになります。

氏名	連絡先	専門分野	研究内容
増田俊明 教授	054-238-4794 setmasu@ipc.shizuoka.ac.jp	構造岩石学	私は、主として物理的な観点から地球の現象を眺めています。高温高压変形実験という手段や、力学の知識を利用して岩石の変形を考えています。また世界のあちこちへ出向いて調査+α(旅・温泉・グルメ)を楽しんでいます。グリーンランドやヒマラヤにも行きました。今はアラビア半島のオマーンの岩石に凝っています。
加藤憲二 教授	054-238-4950 skkato@ipc.shizuoka.ac.jp	地球環境微生物学	地球上には10の30乗にも達すると見積もられるほどの膨大なバクテリア(厳密には真正細菌と古細菌からなる原核生物)が存在し、地球生態系を動かしている。地球上に最初に現われた生命でもあるバクテリアは地球環境を大きく開拓してきた生物群である。地球環境の変遷と、その中でのバクテリアの雄大な営みを温泉や深海底の熱水噴出孔などの高温極限環境や地下圏、酸化還元境界や水-泥境界など環境の位相が推移する場などを対象に研究する。
茨木雅子 助教授	054-238-4785 sbmibar@ipc.shizuoka.ac.jp	微化石層序学	海底の地層に豊富に含まれ、顕微鏡で観察する微化石である浮遊性有孔虫(大きさ0.2-0.5mm)は海洋を浮遊するプランクトンであるため、国際的に共通な年代尺度として重要な価値を持っています。私はこの浮遊性有孔虫を用いて第三紀以来太平洋地域で起こってきた地質学的イベントの同時性、関連性を追求しています。
海野進 助教授	054-238-4789 sesumin@ipc.shizuoka.ac.jp	火山学 岩石学	マグマは地表に現れると、全天を覆うきのこ雲や灼熱の溶岩となり、ときに恐ろしく、ときに美しく私たちに魅了します。私は、マグマがマントルから地殻を通り抜け、噴火する際に発生する様々な現象について、地質学的・岩石学的手法を用いて研究しています。
林愛明 助教授	054-238-4792 slin@ipc.shizuoka.ac.jp	地震テクトニクス 構造地質学	活断層・地震断層に沿う地形の食い違いや第四紀地層の変位および震源断層岩などは、過去の大地震の活動を記録している「化石」です。私は、このような地震の「化石」を研究しており、地表から地殻深部までの震源断層の破壊メカニズム・地震発生機構・活断層(地震断層)活動史の解明を目指しています。
塚越哲 助教授	054-238-4800 satukag@ipc.shizuoka.ac.jp	進化古生物学	オストラコーダという体長1mmにも満たない微小な甲殻類は、その化石が5億年も前の地層から産出し、現在の地球上では1万をこえる種が生息しています。長い年月をへて、深海底から水溜りまで、多くの環境に適応し、種分化していったオストラコーダは、生命の歴史を知る格好の素材です。オストラコーダを自分自身の目で観察し、考えてゆくことによって、壮大な生物進化の一端を垣間見ることができます。
北村晃寿 助教授	054-238-4798 seakita@ipc.shizuoka.ac.jp	層序学 古環境学	私の研究目的は、第四紀の汎世界的気候変動とそれに伴う氷河性海水準変動に対して、浅海生物がどのように反応したかを解明することにある。第四紀は現在を含めた最新の地質時代であり、氷期と間氷期が繰り返し起こった時代である。これらの気候変動には2万年、4万年、10万年の周期があって、それに伴って海水準もまた変動する。これが氷河性海水準変動であり、その変動量は100mにも達する。このような環境変化は生物にどのような影響を与えるのだろうか?例えば、親潮域に住む浅海生物が黒潮に晒されたならばどうなるのだろうか?

氏名	連絡先	専門分野	研究内容
石川 剛志 助教授	054-238-4801 setishi@ipc.shizuoka.ac.jp	地球化学 岩石学	岩石は、地上付近でできたものから地下何百kmという深さで形成されたものまでいろいろですが、その履歴は化学組成という形で岩石中に保存されています。私は、地球の様々な岩石の化学組成を調べることにより、地球内部の物質のダイナミックな動きやマグマ生成の謎に迫る研究をしています。
道林 克禎 助教授	054-238-4788 sekmich@ipc.shizuoka.ac.jp	マントルテクトニクス 構造地質学	マントルは地球の半径のほぼ半分の厚さをもち、マントル全体では地球の質量の3分の2、体積で6分の5程度を占めています。私は、地表に露出したマントルの構造を調査・解析しながら、地殻の下でアクティブなマントルの構造発達過程を研究しています。
生形 貴男 助手	054-238-4797 sbtubuk@ipc.shizuoka.ac.jp	古生物学 硬組織形態学	どうしたら化石に生命を吹き込むことができるのだろうか？化石は、ただの石ころである限り、寡黙なロマンチストでしかない。しかし、ひとたびそこに生命の痕跡を見出せば、雄弁にその進化の歴史を語ってくれるはずである。太古の生物による造形の跡は、彼らが我々に残した重要なメッセージである。そのメッセージを解読するために、現在生きている生物の造形のからくりを探り、地層の中に刻まれた造形の歴史の断片をつなぎ合わせていくこと、それが私の研究テーマである。
M. Satish-Kumar 助手	054-238-5084 smsatis@ipc.shizuoka.ac.jp	変成岩岩石学 地球化学	私は、変成岩を調べることで大陸地殻の発達過程を研究しています。特に、インド大陸にみられる超高温変成岩(900°C以上で生成)を地質学的・岩石学的・同位体地球化学的な手法を駆使して、その形成過程に迫っています。
宗林 留美 助手	054-238-4934 rsrohri@ipc.shizuoka.ac.jp	生物海洋化学	高校時代に理科実験のレポートを書くたび「昔の人は新しい発見をし易くて良かっただろうなあ」と思ったものでした。私は海洋の物質循環、つまり「海洋にどのような物質がどれくらい存在し、どのような変化をして、それが何によって調節されているのか」を調べていますが、未解決の事象の多さに驚きの連続です。海に出て自分で測定して得た結果や知識を用いて実際に海で起こっている現象を推測する作業は、実験室で行う研究とは異なる充実感を与えてくれるので、今では「色々使える現代に生まれて幸運。」と思っています。
鈴木 雄太郎 助手	054-238-4793 sysuzuk@ipc.shizuoka.ac.jp	古生物学 古生態学	化石も太古の時代には生物であった。そのような生物も、当時は生態系の一員であり、環境に適応していた。現在化石として見られる過去の生物がどのような生き物であり、どのように生きていたのか？時代とともにどのように変化をしていったのか？なぜ、生きながらえたのか、絶えてしまったのか？そしてそれらを理解して何を導き出していくのか？このような疑問に答えを出してゆくのが、私の研究である。
森 英樹 技官	054-238-4795 sehmori@ipc.shizuoka.ac.jp	薄片制作技術	

長らく教室事務をされていた吉田静子さんは平成13年4月をもって退職されました。

北里 洋教授は平成14年4月より海洋科学技術センターに転任されました。

黒田 直教授は平成13年3月をもって定年退職されました。

## 教育学部地球科学系教官紹介

氏 名	連 絡 先	専 門 分 野	研 究 テ ー マ
藤 吉 瞭 教授	054-238-4634 edafuji@ipc.shizuoka.ac.jp	岩石学 鉱物学	1. 変成岩・深成岩の岩石成因的研究
大 塚 謙 一 教授	054-238-4633 edkohtu@ipc.shizuoka.ac.jp	環境教育論 環境変動論 堆積学 海洋地質学	1. 自然、社会の環境変動の時間、空間的特性と環境教育課題 2. 陸岸より深海底へ至る堆積物の動態から見た海洋地質
小 山 眞 人 教授	054-238-4635 mkoyama@ipc.shizuoka.ac.jp	火山学 地質学 地球物理学	1. 火山の噴火史とそれに基づく噴火の長期予測 2. 地殻変動史、地震活動史とそれに基づく地震の長期予測
熊 野 善 介 助教授	054-238-4637 edykuma@ipc.shizuoka.ac.jp	科学教育学	1. 高度情報化社会における科学、技術、社会（STS）教育開発に関する実践研究 2. 構成主義にもとづいた教育開発についての研究 3. 諸外国（特にアメリカ・カナダ・オーストラリア）の科学教育改革についての研究
延 原 尊 美 助教授	054-238-4632 etnobuh@ipc.shizuoka.ac.jp	地質学 古生物学	1. 日本の暖流系動物群の成立過程 2. 新生代における漸深海帯の軟体動物化石群集の古生態
楠 賢 司 技官	054-238-4640 edkkusu@ipc.shizuoka.ac.jp	化学分析 岩石薄片技術	1. 岩石の分解法の研究開発 2. 河川水・地下水の無機成分の分析

### A O入試の実施について

静岡大学理学部生物地球環境科学科地球科学系では、A O入試（地球科学特別野外選抜）を平成14年度入試より実施しています。本入試では、特に野外研究志望の高校生の受験を期待しています。平成15年度A O入試の要項については、静岡大学理学部学務係にお問い合わせください。

道林克禎（静岡大学理学部）